

# 頻発する自然災害

太田川の歴史は水害との戦いの歴史でもあり、有史以来幾多の洪水被害を繰り返してきました。流域の洪水の特徴としては、9月頃の台風による降雨と、6～7月にかけての梅雨前線による降雨の2パターンに大別され、およそ30年に1回の頻度で大規模な洪水が発生しています。近年においては、平成17年9月洪水が戦後最大の流量(矢口第一地点：約7,200m<sup>3</sup>/s)を記録し、中流部で甚大な被害が生じました。

## 太田川洪水災害年表

洪水年月日	ピーク流量 (m <sup>3</sup> /s)	地点名	被害状況	原因
昭和18年 9月20日	6,700	西原	水害区域面積：32,811町歩 被災家屋数：17,632戸(家屋全壊471戸、半壊574戸、流失459戸、床上浸水16,128戸)	台風26号
昭和20年 9月18日	5,900	西原	水害区域面積：10,651町歩(広島県内) 被災家屋数：50,028戸(家屋全壊2,127戸、半壊3,375戸、床上浸水24,168戸、床下浸水20,358戸)(広島県内)	枕崎台風
昭和25年 9月13日	4,500	玖村	水害区域面積：3,594町歩 被災家屋数：28,503戸(家屋全壊403戸、流失3戸、床上浸水4,592戸、床下浸水23,505戸)	キジア台風
昭和26年10月15日	4,500	玖村	水害区域面積：1,550町歩 被災家屋数：851戸(家屋全壊88戸、半壊98戸、床上浸水84戸、床下浸水2,442戸)	ルース台風
昭和40年 7月23日	4,300	玖村	水害区域面積：494ha 被災家屋数：851戸(家屋全壊3戸、半壊3戸、流失2戸、床上浸水118戸、床下浸水725戸)	梅雨前線
昭和47年 7月12日	6,800	玖村	水害区域面積：約200ha 被災家屋数：約1,000戸	梅雨前線
平成11年 6月29日	3,800	矢口第1	水害区域面積：不明 被災家屋数：324戸(家屋全壊13戸、半壊8戸、床上浸水110戸、床下浸水193戸)	梅雨前線
平成17年 9月 7日	7,200	矢口第1	水害区域面積：約130ha 被災家屋数：486戸(家屋全壊4戸、一部損壊44戸、床上浸水284戸、床下浸水154戸)	台風14号
平成22年 7月14日	4,500 (流量観測地)	矢口第1	水害区域面積：約34ha 被災家屋数：約70戸	梅雨前線

※ピーク流量：昭和20年までは西原、昭和47年までは玖村、それ以降は矢口第一地点の流量  
※流量観測値：洪水時に実際に流水の流速を計測し、断面積に乗じて算定した流量



平成17年9月台風14号被災状況  
(安芸太田町加計地先)



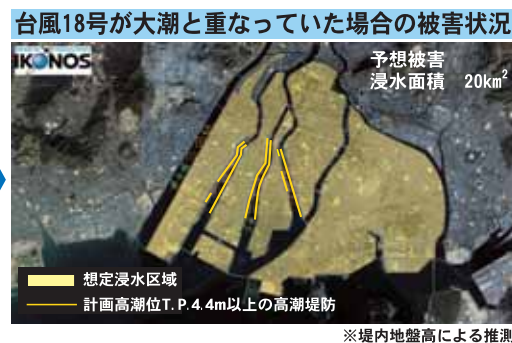
昭和47年7月豪雨被災状況  
(安芸太田町加計付近)

## 高潮災害

太田川河口部の広島市中心部は、江戸時代以降の干拓や埋立てにより形成された地域で、大部分が満潮時の海面(約T.P. 2m)より低く高潮被害が発生しやすい状況にあります。

平成16年8月30日の台風16号は、1年で最も潮位の高くなる大潮と重なり瀬戸内海沿岸部で多くの浸水被害が発生しました。さらに約1週間後の9月7日には台風18号により、江波検潮所(広島市中区)で観測史上最高潮位(T.P. 2.96m)を観測し、市沿岸部で広範囲に高潮浸水被害が発生しました。

(T.P. : 東京湾平均海面を0mとした高さの基準で、一般に標高と呼ばれています。)



## 高潮災害年表

年月日	最高潮位(T.P.m)	偏差(m)	検潮所	被害状況	原因
平成 3年9月27日	2.91	1.81	江波検潮所	床上浸水 575戸 床下浸水 1,954戸	台風19号
平成11年9月24日	2.74	1.84	江波検潮所	床上浸水 216戸 床下浸水 202戸	台風18号
平成16年8月30日	2.78	1.79	江波検潮所	床上浸水 1戸 床下浸水 16戸	台風16号
平成16年9月 7日	2.96	2.09	江波検潮所	床上浸水 86戸 床下浸水 92戸	台風18号

